

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ

(2024年11月18日(月)～24日(日))

岸和田聖書教会

牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまをみことばによって食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

11月18日(月)

今日の聖書日課：イザヤ 46：1～13

ヤコブの家よ、わたしに聞け。イスラエルの家のすべての残りの者よ。胎内にいたときから担がれ、生まれる前から運ばれた者よ。

イザヤ 46：3

神はすべてのものを造られたお方。イスラエルもまた主の手によって造られたもの。けれどイスラエルについて主は特別な表現をされます。「胎内にいたときから」。よりリアルに主の手のわざであることを示しています。「担がれ」「運ばれ」は、偶像礼拝するものが自分たちの偶像を担ぎ、運ぶことを想起させます。主はそれを、まだ生まれる前からひとりひとりのためにされている、言われました。

この造り主が私たちの神なのです。何も心配いりません。

11月19日(火)

今日の聖書日課：イザヤ 47：1～15

私たちが贖う方、その名は万軍の主、イスラエルの聖なる方。

イザヤ 47：4

47章は主のバビロンに対するさばきのことば。強大な帝国バビロンは、しかしその高ぶりのゆえにやがて主によって滅ぼされるのです。読んでみてください。全部、最初から最後までバビロンへのさばきのことばです。その中でたった一言。一節だけ、預言者イザヤの短いことばが述べられています。それが冒頭の聖句。ほかは全部バビロンについての主のことば。しかしここだけはイザヤの賛美。万軍の主、イスラエルの聖なる方は「私たちが贖う方」。イスラエルもまたバビロンと同じように主に背を向けた罪人であるのに、主は「私たちが贖う方」。バビロンよりましだったからではありません。神のあわれみ、神の選び。この方が「私たちが贖う方」。

自分の救いの不思議さをいつも忘れず、思い起こして、今日も主の前に歩いていきましょう。

11月20日(水)

今日の聖書日課：イザヤ 48：1～22

イスラエルの聖なる方、あなたを贖う主はこう言われる。「わたしはあなたの神、主である。わたし

はあなたに益になることを教え、あなたの歩むべき道にあなたを導く。

イザヤ 48 : 17

48 章は再び「ヤコブ」「イスラエル」への主のことば (1)。「イスラエルの聖なる方、あなたを贖う主」。民はみずからの聖さのゆえではなく、主ご自身の決意、あわれみ、選びのゆえにイスラエルを贖われました。神は、贖われた (買い戻した) 民に「益になることを教え、歩むべき道に」導かれるのです。私たちが贖われた、救われた、その後に私たちには道があるのです。歩むべき道が。益となる教えは、聖書のみことばの中にあり、そのみことばを聴きつつ、主イエスさまについて行きましょう。あなたが救われたのは、このためなのです。

11月21日 (木)

今日の聖書日課 : イザヤ 49 : 1~26

主は言われる。「あなたがわたしのしもべであるのは、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのうちの残されている者たちを帰らせるという、小さなことのためだけではない。わたしはあなたを国々の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。」

イザヤ 49 : 6

主のイスラエルへのことば。バビロン捕囚からの帰還は「小さなこと」なのでしょうか？決してそんなことはありません。主の民の救いそのもの、それは大きな大きなこと。しかし主は、それは「小さなこと」だと言います。その向こうには、救われたイスラエルが、世界の国々の光として輝き、地の果ての人々に自分が受けた救いをもたらす (告げる) 者となるから。そのような大きな働きが待っているからです。

神さまがあなた期待されていることがあります。そのためにあなたは救われたのです。

11月22日 (金)

今日の聖書日課 : イザヤ 50 : 1~11

神である主は、私に弟子の舌を与え、疲れた者をことばで励ますことを教え、朝ごとに私を呼び覚まし、私の耳を呼び覚まして、私が弟子として聞くようにされる。

イザヤ 50 : 4

預言者イザヤは自分のことを「弟子」と表現しました。主なる神の弟子です。弟子は師のように成長してその働きを進める者。この弟子は語ります「弟子の舌」を用いて疲れた者を言葉で励まします。しかし語ることに前に聞くことが必要です。耳を開いて「弟子として聞く」こと。師のことばをしっかりと聞くのです。

このように弟子として聞いたイザヤは、弟子として語り続けました。たとえ民が主のことばに耳を傾けず、自分に対して侮辱し、攻撃してきても。どんなときにも大切なこと。それは弟子として主のみことばに聞き続けることです。

11月23日 (土)

今日の聖書日課 : イザヤ 51 : 1~23

「わたし、わたしこそ、あなたがたを慰める者。あなたは何者なのか。死ななければならぬ人間や、草にも等しい人の子を恐れるとは。

イザヤ 51 : 12

あなたは何を恐れていますか？真に恐れるべき方、その方があなたを慰めてくださいます。

11月24日 (日) 今日の礼拝説教箇所 : ヨハネ 3 : 16 「聖書を読めば何が見えるか」

歓迎礼拝。和歌山聖書教会で仕えておられる辻喜男師がみことばを語ってくださいます。

早朝礼拝と和歌山礼拝は栗原牧師。イザヤ 52 : 7 「良い知らせ」。ともに期待して礼拝しましょう。